

No.765 August 2020

ASAHI MACHI

Public Relations

㊦ 広報 あさひまち

2020
8

No.765

豪雨災害
爪痕深く



寄付総額
過去最高

1億 4,123 万円

10,827
件



デザインにこだわることで他自治体との差別化を図っています

昨年度、朝日町へ寄せられたふるさと納税寄付は、10,827件（前年度比1.4倍）で、寄付総額は1億4,123万円（前年度比1.5倍）となりました。寄付者が希望する寄付の使い道で最も多かったのは「ふるさとを愛し学び合う教育事業」、次いで「町長におまかせ事業」「りんごとワインの里の産業・観光事業」と続き、特に子育てや教育環境に関心が高く、応援の声も多数寄せられています。



お礼状として送ったウサヒ間違い探し。多くのメディアに取り上げられました

町では、いただいた寄付金を使い道の指定に沿って、今年度の施策に活用。新型コロナウイルス感染症による影響への支援として「小規模事業主事業継続給付金の交付」や、安全安心な学校給食を提供するための「食洗器・消毒保管器の整備」など、様々な事業に有効に活用していきます。

「特産品のみならず当町の課題解決への関心を深めてもらうため、寄付者に対して、町の魅力や寄付金の活用状況を継続して発信する取り組みに力を入れている」と話すのは、業務を管轄する佐藤修政推進課長。今後の運用方針について「寄付金の使い道をより分かりやすく伝えるとともに、寄付者の思いを形にすることで今後も選ばれる町を目指していく」としています。

令和元年度 朝日町ふるさと納税寄付実績報告

目次 ◎ CONTENTS

- P2 町長歳時記
- P3 Pick Up News
令和元年度 朝日町ふるさと納税寄付実績報告
- P4 特集 町を襲った記録的豪雨
- P8 町政スポット
・「ニッサンの森」夏の活動
・町中学生海外派遣事業 出発式
・阿部くに子さんに厚生労働大臣表彰
・サクラアワードグランプリを知事に報告
・大学生等へ給付金等を支給します！
- P10 まちレポ
・うちに季節の動植物を描こう
・サクラマス稚魚の放流体験
・大沼の浮島「島まつり」 ・ドキドキ探検隊
- P11 輝け未来のアスリート 朝日町スポーツ少年団
- P12 住人十色
- P13 それいけ協力隊とウサヒ、町立図書館コーナー
- P14 健康あさひるばんざい、朝日町エコミュージアムサテライト散策、戸籍のまど、となりのりんごさん、広報紙でふるさとのおもくもりを
- P16 今月のウサヒニュース

表紙の写真



7月28日、山形県内で梅雨前線や低気圧の影響で記録的な豪雨に見舞われました。表紙の写真は増水した朝日川の激流により崩壊した県道白滝宮宿線（立木地区）。変形したガードレールやむき出しになった土が被害の大きさを物語っています。（関連記事：特集4P～7P）

町長歳時記 （166）

一枚岩になりきる ～危機的状況時における 最も重要なこと～

梅雨末期の大雨が去り、8月に入りようやく長かった今年の梅雨が明けました。町内を襲った7月豪雨は、大暮山地区のりんご畑の幅約百メートルに渡る大規模な地滑り等多数の農地災害をはじめ、家屋の床上・床下浸水、国道、さらには町道等の土砂崩れによる通行止めなど、多岐に渡り甚大な被害の爪痕を残してしまいました。

係る被害の甚大さに対し、さっそく知事はじめ地元国会議員、さらには国の関係機関の状況調査など、早急な対応をさせていただいております。町も国県そして地元住民の方々と密に連絡連携を取らせていただき迅速な対応に努めてまいります。

コロナ禍による国の非常事態宣言が解除された後、一時平静を取り戻したかにあった国内状況は、ここに至って感染確認が非常事態宣言を上回る感染者の確認となっています。

7月上旬、熊本県を中心に九州や中部地方など各地で集中豪雨災害が続発いたしました。そのような中、朝日町ではコロナ禍における避難所開設訓練を全職員参加により、7月2日、3日の両日町民体育館を会場に開催いたしました。総務課危機管理係、健康福祉課、広域消防朝日分署の指導の下、避難者の対応誘導、さらにはパーティションの組み立て配置、段ボールベッドの設置など、初めて体験する訓練に全職員が臨みました。訓練となると往々にして若干の気の緩みなども出て、だらけてしまうこともありがちですが、全ての職員が真剣に取り組んでいる姿を見て感心し、また心強く思ったところでありました。

危機的状況の時、一枚岩になりきれる、このことが非常に重要なことだと痛感しました。コロナ禍、豪雨災害等逼迫した状況の連続ではありませんが、町民の皆様と一体となってこの難局を乗り切って参ります。

朝日町長 鈴木浩孝



法面が崩落し8月3日まで通行止めとなった国道287号線（栄町）



特集 町を襲った記録的豪雨

送橋川が増水し、床上浸水の被害が発生（下芦沢）



土砂崩れにより分断された農道（大暮山）



冠水したりんご園地。枝に絡まった草でピーク時の水面の高さが分かります（小原）



民家の庭に倒木を含む土砂が流入（ハツ沼）

7月28日、山形県内で梅雨前線や低気圧の影響で記録的な豪雨に見舞われました。この日の日降水量は西川町大井沢215.0mm、長井203.0mmなど5地点で観測史上1位を更新し、記録的な大雨となりました。

朝日町では幸いにも人的被害はありませんでしたが、町内全域にわたり道路の冠水や土砂崩れによる通行止め、河川の氾濫、農地被害が発生しました。



お食事処番外地裏の水路（栄町）



岸の隣まで水位が上昇した送橋川（古楨）



冠水した県道白滝宮宿線（太郎第二）



泥水が流入した田（元町）



立木地内の災害を視察する吉村知事



浸水を防ぐ土のうを作成する町消防団



下芦沢区長
岡崎 兼一さん

経験したことのない大雨、人命を最優先に

7年前の7月、平成25年にも豪雨災害がありました。今回はその時を上回る規模でした。下芦沢には60年以上住んでいます。ここまでの雨は初めてで、みるみるうちに川の水位が上昇しました。これはダメだと思い、まだ水位が低い11時頃から各家へ避難を呼びかけ、幸いにも水位が上がる頃には公民館に避難することができました。

今回の災害で改めて自然の力は恐ろしいと感じました。自分たちの命を守るために、これからも区内での連携を密にし、防災の意識を高めていきたいです。

避難・被害の概要（7月30日時点）

▶農林水産被害等

種別	被害内容	被害件数
農地	崩落・堆積	61
水路	越水	5
	崩落・法面崩落・堆積	24
農道	崩落・法面崩落・堆積	42
ため池	損傷	5
林道	崩落・法面崩落・堆積	9
施設	畜舎へ流水	1
作物被害	冠水	32
合計		179

▶道路被害状況

種別	被害内容	被害件数
国道	土砂崩れ・冠水	3
県道	土砂崩れ・路肩欠損 等	11
町道	土砂崩れ・路肩欠損	31
	法面崩壊・冠水 等	
合計		45

▶避難所開設状況

避難所名	避難者数（人）
開発センター	10
町民体育館	16
西部公民館	46
秋葉山交遊館	3
合計	75

▶自主避難状況

施設名	避難者数（人）
接待公民館	5
上郷集落センター	7
大滝公民館	20
杉山公民館	6
下芦沢公民館	7
大暮山公民館	3
合計	48

▶建物被害状況

建物区分	被害状況	件数
住家	床上浸水	1
	床下浸水	8
住家	土砂災害	7
非住家	床下浸水	6
非住家	土砂災害	2
創遊館	床上浸水	1
夏草公民館	床下浸水	1
合計		26

▶孤立集落

地区名	孤立原因	世帯	人数
雪谷	冠水	13	27
水本	土砂災害	21	56
白倉	路肩欠所	6	12
立木	土砂災害	4	8
合計		44	103

▶人的被害 なし

災害から学び 明日の防災の糧に

昨年9月の台風19号による災害に続き、今年も豪雨による災害が発生。今年は新型コロナウイルス感染症の問題もあり、ますます災害に対する備えが重要視されています。今回の経験を町の防災力向上へとつなげるために、当日の町の動きや被害状況について振り返ります。



総務課
三浦 浩一 課長

今回は今まで経験したことのない豪雨となり町内では24時間の雨量が200mmを超え、町内全域で河川の氾濫や土砂崩れ、住宅の床上、床下浸水、道路、農地等の被害が発生しました。町では大雨警報が発令されると、役場内に災害対策警戒班を配備。その後土砂災害警戒情報が発表されたことを受け、町内3か所に避難所を設置しました。各避難所では新型コロナウイルス感染症対策を同時に行う必要があることから、各避難所での職員の対応が非常に重要になります。町では、7月上旬に全職員を対象に避難所設置訓練を行っていたこともあり、全体的にはスムーズな避難所運営ができたと思っています。

町が設置する避難所は収容人数に限りがありますので、町民のみなさんには避難所だけでなく親戚のご自宅等避難できる場所を日頃から考えてみてください。

これから台風シーズンに入り、異常気象も頻繁に起こっていることから、いつ災害が起こるかわかりません。町も含め消防団、自主防災組織等関係機関が連携しながら町民の安全安心を確保できるよう、日頃から万全の対策を講じていきたいと考えています。



開発センターホール避難所の様子。密を避けるよう段ボールベッドが配置されました



避難所受付では訓練通り、フェイスシールドと手袋を装着し感染症対策を万全にしての対応

災害三日の時系列

7月28日

0時47分 大雨注意報発令
5時34分 大雨警報発表
5時40分 災害対策警戒班配備
7時15分 町道長根線・林道めぐみ線通行止め

7時47分 町道杉山水本線通行止め
8時30分 町道今平線片側通行
5時40分 災害対策警戒班配備
9時50分 栄町床下浸水
10時00分 松原床下浸水
10時05分 土砂災害警戒情報発表
11時00分 県道白滝宮宿線・長井大江線・左沢浮島線通行止め
11時35分 町内全域避難勧告（町内に3か所避難所設置）

12時00分 災害対策本部設置
新宿・前田沢床下浸水
12時17分 県道中山三郷寒河江線下芦沢・水本間通行不可
12時25分 洪水警報
12時30分 R287前田沢地内冠水
12時30分 新宿床下浸水
12時30分 前田沢公民館わき土砂崩れ
13時05分 宇津野八公民館へ4人避難
中部12人・西部3人避難

13時20分 水本接待公民館へ5人避難
大船木（大遠）畑真道へ土砂流出法面崩れ
14時00分 大滝公民館に20人一時避難
14時10分 北部交遊館1人避難
14時14分 粧坂門付近土砂崩れ
14時18分 町道太郎北線冠水
14時54分 新朋常盤堰山崩れ
能中山崩れ

15時40分 夏草公民館三中堰冠水
15時50分 前田沢下芦沢線通行可能
16時00分 高田公民館前地崩れ
16時00分 高田ポンプ庫前土手崩壊
16時16分 町道雪谷線冠水
16時30分 杉山公民館へ6人自主避難
18時29分 下芦沢公民館へ7人自主避難
R287大滝日陰ノ沢橋手前川側土砂崩れ

19時00分 杉山公民館自主避難解除
19時27分 町道白倉線道路欠陥
7月29日

6時35分 町道雪谷線開通
7時30分 立木佐竹商店前開通
8時00分 前田沢下芦沢線開通
8時20分 北部避難所全員帰宅
10時20分 西部避難所全員帰宅
12時33分 中部避難所全員帰宅
12時35分 大雨注意報切替え
17時30分 避難勧告解除
災害対策本部解散
災害復旧対策会議設置

サクラアワードグランプリを知事に報告

7月15日、(有)朝日町ワイン代表取締役の鈴木浩幸町長らが山形県庁を訪問し、女性が審査



吉村美栄子知事（左から2番目）に報告する朝日町ワインのみなさん

する国際ワインコンペティション「サクラアワード2020」で国産赤ワインの最高賞「ベスト日本ワイン賞グランプリ」を受賞したことを吉村美栄子知事に報告しました。

報告を受けて吉村知事は「多くの女性審査員から選ばれ、日本のワインの頂点になったということは素晴らしいこと。今後の更なる活躍を期待します」と話しました。

阿部くに子さんに厚生労働大臣表彰

健康福祉課 福祉子育て係 ☎67-2132



阿部くに子さん（中央）と渋谷一俊民生児童委員協議会会長（右）

7月10日、朝日町役場において厚生労働大臣表彰の伝達式が行われ、15年にわたり民生委

員児童委員として社会福祉の向上に尽力された阿部くに子さん（大町）に鈴木町長から表彰状が手渡されました。

鈴木町長は、「長年にわたって地域における福祉活動に多大なる貢献をいただいた。今後も健康に留意され、これまでの経験を後輩や地域の方に伝え、社会福祉の向上にご尽力いただきたい」と感謝の意を述べました。

やまがた絆の森プロジェクト「ニッサンの森」夏の活動

農林振興課 農林振興係 ☎67-2114



7月23日、Asahi自然観でやまがた絆の森プロジェクト「ニッサンの森」夏の活動が行われ、同社社員約60人が参加しました。豊かな森林の保全と活用を通して、企業と地域が交流することにより里山地域の活性化を図る県の事業「やまがた絆の森プロジェクト」。町が平成29年3月に、山形日産自動車株式会社および日産プリンス山形販売株式会社（小関眞一代表取締役）と、絆の森協定を締結して今年で4年目となり今回は新型コロナウイルス感染症の影響により、社員の家族は参加せず規模を縮小しての開催となりました。

今回の森づくり活動では、前回の活動で植えたミズナラの苗木周辺の下刈りや、歩道整備などを行いました。草刈り作業に汗を流した小関代表取締役は「みんなが一緒に一つの目標に向かって同じ仕事をするということが、リモート化等が推進されている時代だからこそなおさら大切なのかなと思います」と草が刈りはられきれいになった周辺を見渡しながら話していました。

大学生等へ給付金等を支給します！

募集期間
10月15日まで

- 次のいずれにも該当する方。
- ①学校教育に規定する大学、短期大学、大学院、高等専門学校（4年次以上に限る）及び専修学校、並びに大学校、各種専門学校及び予備校に在学している方
 - ②平成14年4月1日以前に生まれた方
 - ③申請者の保護者等が町内に住所を有する方

○支給対象者

- ①給付金
支給対象者1人につき2万円
- ②特産物
支給対象者1人につき米10キログラム及びりんご10キログラム（県外居住者のみ）

○支給内容

新型コロナウイルス感染症の拡大により、経済的に厳しい環境におかれた大学生等に対して、給付金等を支給し応援します。

○申請書類

町HPよりダウンロードした申請書に、次の書類を添えて申請してください。

- ①学生証の写し（有効期限、学年、入学年月日等就学していることが分かること）または在学証明書
- ②申請者本人確認の書類の写し（運転免許証、健康保険証、パスポート、マイナンバーカード、年金手帳のいずれか1点）
- ③申請者名義の通帳の写し（表紙ではなく、開いた1ページ目）

○申請方法

感染症拡大防止のため、政策推進課へ郵送にて申請
▼申込み・問合せ先

政策推進課 総合政策係

☎67-2112
FAX 67-2112



異文化交流を通じて世界的視野を育む 町中学生海外派遣事業 出発式



グローバルな視点と柔軟な思考で幅広く活躍できる人材を育てる「町中学生海外派遣事業」。その出発式が7月27日、創造館で開催され、朝日中学校3年生8人が出発前の最終確認と決意表明を行いました。

本来であればアメリカに派遣する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により今年度はブリティッシュヒルズ（※）に派遣することとなりました。式ではまず鈴木町長から「普段と全く違う空間の中で

一回りも二回りも大きく成長してほしい」と激励。その後、派遣生一人ひとりが家族の前で英語での決意表明を行いました。

派遣生8人は、7月31日から8月3日の日程の中で海外での疑似ホームステイ体験やテーブルマナー講習などの研修を行い、事後学習会を経て報告会を開催する予定です。

※福島県岩瀬郡天栄村にある英会話や英国文化を理解するために作られた施設。



6月号から始まった町のスポーツ少年団を紹介する短期連載コーナー。1号に2つの団体を紹介します。3回目は「朝日町柔道スポーツ少年団」と「朝日卓球スポーツ少年団」です。



「朝日町柔道スポーツ少年団」

【基本情報】
 ■活動日時 火金 19:00～
 ■設立年 昭和56年 ■活動場所 朝日中武道館
 ■母集団会長 熊谷 知則
 ■代表指導者 和田 一則 ■連絡先 67-8737

「朝日卓球スポーツ少年団」

【基本情報】
 ■活動日時 火水金 19:00～
 ■設立年 昭和57年 ■活動場所 健康増進センター
 ■母集団会長 伊藤 裕子 ■連絡先 080-6028-9385
 ■代表指導者 阿部 哲 ■連絡先 67-2739

「朝日町柔道スポーツ少年団」朝日町柔道スポーツ少年団代表指導者 和田一則さん

Q 指導方針は？
 A 柔道の創始者である嘉納治五郎師範の「精力善用」「自他共栄」の精神を大切に活動しています。
 Q 団の決まりごとは？
 A 全柔連が推進しているMINDプロジェクトの礼節、自立、高潔、品格のこれら4つを守ることです。
 Q 団の特徴は？
 A 小学生と中学生が打ちこみや乱取りなど一緒に稽古をしています。
 Q 団の雰囲気は？
 A もちろん、稽古が厳しいときもありますが、小さい子から中学生3年生まで助け合いながら活動しています。



「朝日卓球スポーツ少年団」朝日卓球スポーツ少年団指導者兼母集団会長 伊藤裕子さん

Q 指導方針は？
 A チームワークを身に付けるためにコミュニケーションの大切さを説いています。また、自ら進んで考える心も体も成長していけるようにメリハリを持った行動をするよう指導しています。
 Q 団の決まりごとは？
 A あいさつ等当たり前のことをきちんとすること。仲間を思いやり、常に向上心を持って練習することです。
 Q 団の雰囲気は？
 A 今新型コロナウイルスの影響でできませんが、バレーやクリスマス会、ボーリング等交流する機会を設け仲良く楽しく過ごしています。
 Q 団の特徴は？
 A スポ少団員のOBや経験者のみなさんから指導していただいており、幅広い年齢の人と練習ができています。変化のある練習もしており、それらがいい刺激になっています。



▲オリビア先生の友人も参加し国際色豊かなイベントとなりました



▶放流後は旧立木小でイワナの串焼きが振る舞われました



◀今年は特別に「疫病鎮静」の札(右)も立てられました



▶切り出した竹をみんなで運ぶ子どもたち



水彩で描く自分だけのうちわ うちに季節の動植物を描こう

7/11

7月11日、創遊館で日本画家の山口裕子さん(大町)を講師に迎え、町教育委員会が主催する「季節の動植物を描こう3」が行われました。このイベントは平成30年度から行われている町中央公民館文化講座「くらしに彩りを。」の一環で今年で3回目の開催となります。

この日は町内外から13人が参加し、2時間程かけて紙のうちに金魚やアジサイ等夏の動植物を描きました。参加者たちは完成した作品の出来に満足そうな笑顔を浮かべていました。

放流を通して河川に親しむ サクラマス稚魚の放流体験

7/14

7月14日、宮宿小学校の6年生32人が立木河川公園でサクラマス稚魚の体験放流を行いました。この体験は最上川第一漁業協同組合(村山友雄組合長/栄町)の協力で環境教育の一環として昨年度から実施しています。

当日はあいにくの雨模様でしたが、子どもたちはバケツに入ったサクラマスの稚魚3万2千匹を慎重に川へと送り出しました。この放流体験は来年以降も町内小学校を順番にめぐって実施していく予定です。

新型コロナウイルス終息を願って 大沼の浮島「島まつり」

7/19

7月19日、国指定名勝「大沼の浮島」で岸から切り出した新島に命名する神事が行われました。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため例年より規模を縮小して開催しました。

沼を浮遊する大小様々な島は、地区民から「お島様」と呼ばれ信仰の対象となっています。新たな「お島様」は、浮嶋稲荷神社宮司の最上俊一郎さんが今年の恵方である西南西にある石川県の旧国名にちなみ「加賀之島」と命名しました。訪れた人々は島が水面を静かにたどる様子を見守っていました。

今年度1回目の活動 ドキドキ探検隊

7/19

ドキドキ探検隊達人倶楽部(鈴木直幸代表)が企画・運営する北部公民館事業「流しそうめんをしよう」が7月19日、秋葉山交遊館で行われ、北部地区の小学生9人が参加しました。

竹林から切り出した竹を、達人から教えてもらいながら鋸や小刀を上手に使うと、箸と麺つゆを入れる器を手づくり。今年は新型コロナウイルス対策として密集しないように竹の樋を3本つくり、冷たい水とともにそうめんを流すと、子どもたちは「おいしい!」と素敵な笑顔を見せてくれました。



先月から大谷小学校の6年生の総合的な学習の時間のゲスト講師として授業を受け持っています。全6回の授業で、映像の制作ができるようになるカリキュラムを教えています。

当然のことですが小学校には映像を教える教科書などなく、4月から担任の田口先生の相談を受けつつ一緒に授業の構想を練り、ついに7月からスタートとなりました。

こういった地域内で活動する人と学校が共に学校運営を考え実行する活動は「コミュニティ・スクール」とも呼ばれていて、町では2018年から4つの学校で運営協議会を設置して、魅力ある学校づくりを共に考える取り組みを始めています。私は朝日中学校の担当委員で



▲実際の授業の様子・ウサヒの佐藤先生と映像づくりを学ぶ「オーヤスタジオ」

先生の仕事をすることが楽しいと思える学校である事。その先に子供達の豊かな笑顔があります。朝日町で活動するひとりとして、全力で先生と一緒に夢ある仕事ができるよう、引き続き頑張っていきます。



町地域おこし協力隊と桃色ウサヒの「中の人」こと、佐藤恒平情報交流総合アドバイザーによる連載コーナー。日々の活動や朝日町での暮らしを語ります。

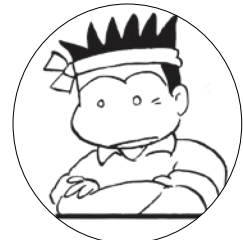
「先生の理想の授業を一緒につくる」

情報交流総合アドバイザー 佐藤 恒平 (福島県出身)

はあるのですが、今回は役場を通して大谷小学校からの依頼があり、コミュニティ・スクールの実践をしていく上でもとてもいい機会だと思ってお引き受けしました。

子供達が朝日町で育ったことに自信と誇りを持てるようにというのは、授業を受け持つ上での重要方針にしています。しかし、自分が最も大切にしているのは、これが「学校の先生へのサポート」だということです。私が教えた事を授業するのではなく、担任の先生が考える子供達がこんな事を学んだら豊かな心を育めるのではないかという理想。これを一緒に形にすることが、結果的には一番子供たちに響く学びになると考えているからです。

冒頭に先生と授業構想を練ったと書きましたが、実際にやっていたのは、どんな教育を目指したいかという先生一人では実現できない夢を語り合う時間でした。朝日町で先生の仕事をすることが楽しいと思える学校である事。その先に子供達の豊かな笑顔があります。朝日町で活動するひとりとして、全力で先生と一緒に夢ある仕事ができるよう、引き続き頑張っていきます。



▲初めは架空のキャラクターとして描いていたものが、連載しているうちに自分と重なっていったそうです。そのため実際の長嶋さんと見た目が違うとのことでした。



▲平成21年2月号掲載分。この時の内容は実話100%です(長嶋さん談)。



30年以上にわたり町広報紙で4コママンガを連載

ひろあき 長嶋 浩彰 さん(真中出身)

1989年1月、年号が昭和から平成へと変わった月から町広報紙でスタートした4コママンガ「隣のリンゴ家族」。今月号で324回目を記録し、連載開始から31年が経過しています。4コママンガを掲載している自治体の広報紙は全国的にも珍しく、今や広報あさひまちに欠かせないコーナーです。今回は作者の長嶋さんにマンガを描くことになったいきさつやそれに対する思いについてお聞きしました。

としていたのですが、同じ部にマンガを描く同級生がいたのが始まりでした。それまでマンガを描くことも読むこともなかったのですが、同級生が描けるだろうと思い、練習していたら描けるようになっていました。昔は少年マンガも描いていたのですが、数をかけなくてやめてしまい、その後4コマや1コマを描きはじめそちらは商業誌で取り上げられました。

ました。毎月すごいプレッシャーを感じていて、実は今日の朝も心配で早く起きてしまいました(取材日はお願いしている期限の4日前)。締切が迫っていながらも妻の親の具合が悪くなって病院で付き添いをした時は、その病院の廊下で描いたこともありました。

一この機会に伝えたいこと

私がマンガを面白おかしくサラサラッと描いていると思われるのですが、いつものた打ち回りながら出来ているので、お気楽に描いていると思われると非常に悔しい(笑)。私自身にお笑いの要素は全くなくて真面目な人間なんですよ。

一楽しみにしている方へ

南陽市に住んでいますが気持ちはいつも朝日町にあります。町でこんなことあったよとかマンガを読んでの感想などありましたら、広報の方を通して教えていただきたいです。30年以上も続けているとライフワークになっていて、今後も連載を続けられるうちは続けたいと思っています。これからもよろしく願います。

一印象に残った出来事

東日本大震災の時と私に子どもが出来たことですね。特に後者の頃から子育てネタなど日記のような内容になってきたと思います。初めは架空の家族のことを描いていたのですが、今見直すと嘘くさく見ていられないです。自分の家族のことを描きだしてからは7~8割は実際に起きたことを描いているので、こんなことあったなとみていただけるのですけどね。

一連載する上で重要な締切について

今まで締切に間に合わなかったことはないのですが、何度も厳しいときはあり

一町広報紙で4コママンガを連載することになったきっかけ

町立病院で働いていた高校の同級生(現町立病院作業療法専門員の清野敏秀さん)から広報紙で連載してみないかと持ちかけられたのがきっかけでした。当初はこんなに続くとは思わなくて、いつも結構ですと言われるかと思っていたのですが、現在まで打ち切られずこまめやってきました(笑)。

一マンガを描くことについて

高校生の時は美術部で油絵をメイン

町立図書館新刊案内

課題図書 高等学校の部 2020 「廉太郎ノオト」 谷津 矢車 著



頭のなかに、いつも鳴り響いている音がある。廉太郎は東京音楽学校で才能を開花させ、新しい時代の音楽を夢見るが、歴史小説の俊英が描く、天折の天才音楽家・瀧康太郎の青春物語。

親子で楽しく学ぶ食育絵本 「まほうのおまめ」 松本 春野 文・絵 辰巳 芳子 監修



豆腐、味噌、醤油、日本人の食卓を支える大豆。しかし、自給率はわずか7%。その100粒を播いて育てる子どもを増やしたい。幼い子どもにも「まほうのおまめ」、大豆のことを知ってほしい。

【その他の新刊】

- ▼少年と天ノ馳星周 第163回 木賞受賞作 ▼破局／遠野遼 第163回 芥川賞受賞作 ▼ホーム／堂場瞬一 ▼囚われの山／伊東潤 ▼夢は捨てたと言わないで／安藤祐介 ▼日本美味前史／磯崎憲一郎 ▼稚児桜／澤田瞳子 ▼キャパとゲルダ／マーク・アロンソン ▼チーム・オペリベリ／乃南アサ ▼黄色い夜／宮内悠介 ▼サキの忘れ物／津村記久子 ▼地図とデータで見るSDGsの世界ハンドブック／イヴェット・ウエレ ▼おとめ六法／上谷さくら ▼虫とゴリラ／養老司 ▼できるテレビ入門／法林岳 ▼ワイルドサイドをほつつき歩け／ブレイディみかこ ▼鴨川食堂もてなし／柏井壽 ▼ヒポクラテスの試験／中山七里 ▼女だてら／諸田玲子 ▼来世の記憶／藤野可織 ▼大江戸火龍改／夢枕獯 ▼オフマイク／今野敏 ▼一人称単数／村上春樹 ほか



【ブックテマコーナー】 第66回 (2020) 課題図書を読んでみよう！ -読んで世界を広げる、書いて世界をつくる-

戸籍のまど

Asahi town

7月1日～7月31日届出

Births

すこやかに

区 名	出生児氏名	性別	保護者名
沼 向	高 橋 到 里	男	尚洋・幸奈

Marriages

おしあわせに

加 藤 司 (山形市)	鈴木 千穂 (大谷第五)
----------------	-----------------

Obituaries

やすらかに

区 名	死亡者氏名	世帯主名
緑 町	志 藤 昇 一	徳 幸
太郎第二	鈴 木 ナミ子	セツ子
大 町	長 岡 義 夫	百合子
大谷第五	長 岡 金 一	政 利
大谷第六	大 谷 光 代	浅 二
大谷第六	小 野 きみよ	昇一郎
大谷第六	大 谷 道 子	俊 三

掲載を希望しない場合は
届け出の際にお申し付けください

Population

人口と世帯数

●令和2年 7月31日 現在

※()内は先月比

人 口	6,613 人 (- 4)
男	3,275 人 (- 3)
女	3,338 人 (- 1)
世帯数	2,395 世帯 (+ 3)

----- 7月中の異動 -----

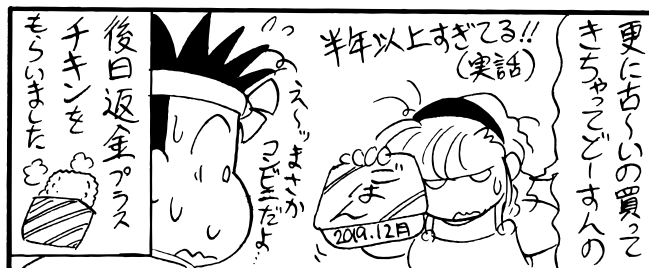
出生	2人	転入	8人
死亡	10人	転出	4人

(※外国人を含む)

こないのリンゴさん

(324)

ホリイ



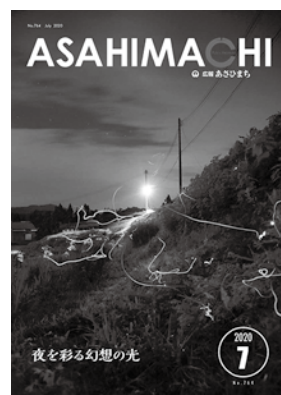
広報紙でふるさとのおくもりを

町外在住者の広報紙定期購読を受け付けています。

「町外在住だけど朝日町の情報が欲しい...」。町では広報紙の定期購読制度を設け、こうした声にお応えしています。現在 24 人が購読中です。購読希望は随時受付中ですので、遠方にお住いの家族や親類の方々にぜひご紹介ください。

▶料金 年間1,680円 (1カ月あたり送料140円)
▶申込み 下記へ電話、メール等で申込みください。後日、郵便払込取扱票をお送りします。

▶申込み・問合せ 政策推進課 ☎0237-67-2112
E-mail inform@town.asahi.yamagata.jp



健康



これって虐待...? みんなの「気づき」が大切です

今月の担当...佐竹 律 主査兼介護支援係長



新型コロナウイルス感染症の影響により、全国的に家庭内の虐待やトラブルが増えていると報告されています。

「いちゃんを叩いてしまった」「激しく怒った」「物忘れで分からないから部屋に閉じ込めた」いずれも高齢者虐待となります。

高齢者虐待は「身体的虐待」「心理的虐待」「介護等放棄」「経済的虐待」「性的虐待」に分類され、山形県では平成30年度150人報告があり、平成27年度198人をピークに減少しています。年齢では75歳以上の方が大半を占め、介護保険サービスを利用していない方が多い傾向にあります。

近所で怒鳴り声が聞こえる。高齢者が屋外に長時間放置されている。アザや傷がある。このような事を発見した場合、みなさんはどうされますか? 「これって虐待に当たるか自信がない」「家族の人がこんなに頑張ってる介護しているのに、虐待なんて言ったらかわいそう」このような思いを抱かれる方も多いかも知れ

ません。しかし、そのまま放置してしまうと重篤な傷害や死に至ってしまう可能性があります。高齢者虐待は本人から助けを求めることが少なく、家庭内で起っているために発覚しにくい状況にあります。だからこそ、「周囲の人の気づき」が大切です!

また、介護をしている方は、様々なストレスを抱えて日々過ごしています。介護ストレスが酷くなると自分の気持ちを整えることが困難となり、虐待に繋がる事例もあるようです。介護しているみなさん、一人で抱え込まず、いつでもご相談ください。

▼問合せ先
健康福祉課 介護支援係
☎67・2156



朝日町エコミュージアム

サテライト散策



【一言メモ】写真は上芦沢の送橋川にある中郷本田堰の揚げ口

なかこうほんでんげき 第36回 中郷本田堰

【DATA】水本地内、上芦沢集落南端の揚げ口から水路沿いに道があり、新宿への落ち口からは柏原のブドウ園地に出られる。

宮宿のあたりは、昔は中郷と言われており、この地名を今に伝える中郷本田堰は、送橋川上流の上芦沢地内で取水し、新宿まで約4.5キロメートルの水路を造り、宮宿地区の田に水を引いたものです。この堰の建設の中心になったのは、宮宿の柴田七郎兵衛家の第25代吉康で、山形城主最上義光の援助を受け、天正13年(1585)に着工し、3年後に完成させており、町内では最も古い堰とされています。

かつては、最上川からポンプで汲み上げた水と共に、宮宿地区の約50ヘクタールに及ぶ水田を潤していたが、宅地造成などにより、水田の面積が少なくなっているため、今は杉ノ原の方にだけ流れているそうだよ。また、中郷本田堰の沿革を記した石碑が中郷ハイツの西側に立っているんだよ。

案内人のつばやき



今日のウサビニユース

不定期掲載



ゆるキャラトレカ第3弾が登場

ゆるキャラグランプリ実行委員会が発行する「ゆるキャラトレカ(トレーディングカード)」で、桃色ウサビのカードが新しくなりました。

カードはゆるキャラの所属自治体ごとに無料で配布され、キャラクターのPRやファンが地域(イベント)を訪れるきっかけづくりなどに活用されます。第1版、第2版が好評につき8月1日から第3版の配布が始まっています。イベント等を除き、原則朝日町に来ないと手に入らないカードですので、手に入れたらSNS等であげて自慢してみてください。

◆カード配布場所

- ・道の駅あさひまち(観光案内所)
- ・あさひ旅のココロ館(町観光協会)
- ・Asahi自然観
- ・(有)近江屋
- ・松本亭一農舎
- ・朝日町役場2階政策推進課

◆問合せ先

政策推進課 総合政策係
☎ 67-2112



第3弾は空気に感謝するウサビ



第1弾(左)と第2弾(右)は配布終了

ゆるキャラグランプリウサビエントリー中

ゆるキャラグランプリとは全国の自治体等の「ゆるキャラ(ゆるいキャラクター)」の中から投票によって一番を決める大会で、2010年からスタートし、今年で11回目最後の開催となります。

今年度でファイナルを迎えるゆるキャラグランプリには桃色ウサビも参加しています。投票はインターネットから一人1日1回。みなさん、桃色ウサビへの投票をお願いします。

投票期間

7月1日10時から
9月25日18時まで

みんなオラに
力を分けてくれ



投票はこちらから



ウサビの投票画面。ゆるキャラの概念を考えさせられるビジュアル

今月号では、表紙、特集ともに7月末に山形県を襲った豪雨について取り上げました。災害当日の28日、私は災害の記録をとるため、被害現場を回ったのですが、その状況に衝撃を受けました。以前北海道胆振東部地震の災害支援派遣の際、大規模な災害現場を見たときもあまりの被害に言葉を失ったのですが、生まれ育ち見慣れた町の風景が一変してしまうというのはまた別の衝撃がありました。

春夏秋冬 編集後記

「備えすぎた」
ということはない

翌日29日もまた記録のため町内の写真を撮って回ったのですが、今回の豪雨について、今まで体験したことがないとみなさんお話ししていました。昨年の台風19号から2年連続での水害「2度あることは3度ある」という言葉もありますし、これから台風が来る時期でもあります。これで終わったと油断せず、これからもいざという時のために備えていかなければならないと思います。

鈴木貴典